



TITLE:

表紙・原稿作成要領・編集後記・
裏表紙ほか

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・原稿作成要領・編集後記・裏表紙ほか. 物性研究 1997, 68(2):
250-250

ISSUE DATE:

1997-05-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/96021>

RIGHT:

昭和42年11月14日 第四種郵便物認可
平成9年5月20日発行(毎月1回20日発行)
物 性 研 究 第68巻 第2号

ISSN 0525-2997

vol.68 no.2

物性研究

1997 / 5

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、特別寄稿、研究に関連した諸問題についての意見などです。
2. 本誌に投稿された論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集委員会で本誌への掲載が不相当と判断された場合には、改訂を求めること、または掲載をお断りすることがあります。
3. 本誌の論文を欧文の論文で引用される時には、Bussei Kenkyu (Kyoto) 63 (1994), 1. のように引用して下さい。

原稿作成要領

1. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
2. 別刷ご希望の方は、投稿の際に50部以上10部単位で、必要部数、別刷送付先、請求先を明記の上、お申し込み下さい。
3. **ワープロ原稿の場合**
ワープロ原稿を歓迎します。原則として写真製版でそのまま印刷されますので、以下の点に注意して原稿を作成して下さい。（特に希望される場合には、こちらでタイプし直すことも可能ですが、経費の節約のため、できるだけ写真製版できる原稿をお願いします。）
 - 1) 用紙はB5またはA4を縦に使用。（印刷はB5になります。）
 - 2) マージンは、上下あわせて約4.5cm、左右あわせて約4cm。
 - 3) 1ページに本文34行、1行に全角文字で42字。
 - 4) 第1ページは、タイトルはセンタリング、所属・氏名は右寄せにして、余白を十分にとって下さい。
 - 5) 図や表は、本文中の該当箇所に貼り込み、図の下にキャプションを付けて下さい。
 - 6) 体裁については、上記は一応の目安ですので、多少の違いがあってもかまいません。
4. **手書き原稿の場合**
 - 1) 原稿は400字詰原稿用紙に丁寧に書いて下さい。
 - 2) 数式は大きく明瞭に書き、1行におさまらない場合の改行箇所を赤で指定して下さい。
 - 3) 数式、記号の書き方は、Progress, Journal の投稿規定に準じ、立体（□）、イタリック（*□*）、ゴシック（**□**）、ギリシャ文字（ γ ）、花文字、大文字、小文字などを赤で指定して下さい。本誌は立体を基本としてタイプされますので、式にも必ず、イタリック、立体を指示して下さい。また、著者校正はありませんので、特に区別しにくい文字や記号なども赤で指定して下さい。
 - 4) 図は写真製版できるもの（こちらではトレースはいたしません。）を図の説明と共に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。

1. 本誌は、物性の研究を共同で促進するため、研究者がその研究・意見を自由に発表し討論しあい、また、研究に関連した情報を交換しあうことを目的として、毎月1回編集・刊行されます。掲載内容は、研究論文、研究会・国際会議などの報告、講義ノート、特別寄稿、研究に関連した諸問題についての意見などです。
2. 本誌に投稿された論文については、原則として審査は行ないません。但し、編集委員会で本誌への掲載が不相当と判断された場合には、改訂を求めること、または掲載をお断りすることがあります。
3. 本誌の論文を欧文の論文で引用される時には、Bussei Kenkyu (Kyoto) 63 (1994), 1. のように引用して下さい。

原稿作成要領

1. 原稿は2部（オリジナル原稿及びコピー）提出して下さい。
2. 別刷ご希望の方は、投稿の際に50部以上10部単位で、必要部数、別刷送付先、請求先を明記の上、お申し込み下さい。
3. **ワープロ原稿の場合**
ワープロ原稿を歓迎します。原則として写真製版でそのまま印刷されますので、以下の点に注意して原稿を作成して下さい。（特に希望される場合には、こちらでタイプし直すことも可能ですが、経費の節約のため、できるだけ写真製版できる原稿をお願いします。）
 - 1) 用紙はB5またはA4を縦に使用。（印刷はB5になります。）
 - 2) マージンは、上下あわせて約4.5cm、左右あわせて約4cm。
 - 3) 1ページに本文34行、1行に全角文字で42字。
 - 4) 第1ページは、タイトルはセンタリング、所属・氏名は右寄せにして、余白を十分にとって下さい。
 - 5) 図や表は、本文中の該当箇所に貼り込み、図の下にキャプションを付けて下さい。
 - 6) 体裁については、上記は一応の目安ですので、多少の違いがあってもかまいません。
4. **手書き原稿の場合**
 - 1) 原稿は400字詰原稿用紙に丁寧に書いて下さい。
 - 2) 数式は大きく明瞭に書き、1行におさまらない場合の改行箇所を赤で指定して下さい。
 - 3) 数式、記号の書き方は、Progress, Journal の投稿規定に準じ、立体（□）、イタリック（*□*）、ゴシック（**□**）、ギリシャ文字（ γ ）、花文字、大文字、小文字などを赤で指定して下さい。本誌は立体を基本としてタイプされますので、式にも必ず、イタリック、立体を指示して下さい。また、著者校正はありませんので、特に区別しにくい文字や記号なども赤で指定して下さい。
 - 4) 図は写真製版できるもの（こちらではトレースはいたしません。）を図の説明と共に論文末尾に揃え、図を入れるべき位置を本文の欄外に赤で指定して下さい。

編集後記

年度も変わり、初お目見えの学部生とセミナーを一度やってみて、少々ほっとしたことがある。妙に明るいし、学生同士の質疑応答が自発的に始まるのである。自発的な議論などここ数年、こちらからしむけなければ見られない光景だったので、(全くおかしい話だが)正直言って新鮮であった。学生の性格にもよるのだろうが、決して彼らの学業成績からくるものではない。数学や宇宙物理など、お互い全然違った分野にこれまで取り組んでいた学生達が集まって物性に関するセミナーをやると、どうもこうなるらしい。

現在編集委員会では、募集して送られてきた昨年度の修士論文を読ませて頂いている最中だが、掲載された修士論文に関する質疑応答のやりとりが本誌上で交わされたことがそういえばない。4年程前に本誌では(例えば、vol.60, no.1 (1993))「コメント」欄の原稿募集というのをやったが、全国の若い大学院生の方はこれをご存知ないかもしれない。電子メールのやりとりが当たり前の昨今、ちょっとした質問はメールや電話で済ませてしまうのが多いが、いい意味での「目立ちたがり屋」が本誌上で活躍するのをむしろ歓迎したい。

議論が専門的になってくるほど、周囲には入り込めないやりとりになりがちである。若手研究者が気分的にも仕事の上でも自由を感じる時期に、素朴な質問を寄せてくるのを期待したいと思います。

(I. R.)

物 性 研 究 第68巻第2号 (平成9年5月号) 1997年5月20日発行

発行人	村 瀬 雅 俊	〒606-01	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭 和 堂 印 刷 所	〒606	京都市百万遍交差点上ル東側 TEL (075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒606-01	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
年額	19,200円		

編集後記

年度も変わり、初お目見えの学部生とセミナーを一度やってみて、少々ほっとしたことがある。妙に明るいし、学生同士の質疑応答が自発的に始まるのである。自発的な議論などここ数年、こちらからしむけなければ見られない光景だったので、(全くおかしい話だが)正直言って新鮮であった。学生の性格にもよるのだろうが、決して彼らの学業成績からくるものではない。数学や宇宙物理など、お互い全然違った分野にこれまで取り組んでいた学生達が集まって物性に関するセミナーをやると、どうもこうなるらしい。

現在編集委員会では、募集して送られてきた昨年度の修士論文を読ませて頂いている最中だが、掲載された修士論文に関する質疑応答のやりとりが本誌上で交わされたことがそういえばない。4年程前に本誌では(例えば、vol.60, no.1 (1993))「コメント」欄の原稿募集というのをやったが、全国の若い大学院生の方はこれをご存知ないかもしれない。電子メールのやりとりが当たり前の昨今、ちょっとした質問はメールや電話で済ませてしまうのが多いが、いい意味での「目立ちたがり屋」が本誌上で活躍するのをむしろ歓迎したい。

議論が専門的になってくるほど、周囲には入り込めないやりとりになりがちである。若手研究者が気分的にも仕事の上でも自由を感じる時期に、素朴な質問を寄せてくるのを期待したいと思います。

(I. R.)

物 性 研 究 第68巻第2号 (平成9年5月号) 1997年5月20日発行

発行人	村 瀬 雅 俊	〒606-01	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
印刷所	昭和堂印刷所	〒606	京都市百万遍交差点上ル東側 TEL (075) 721-4541~3
発行所	物性研究刊行会	〒606-01	京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
年額	19,200円		

会員規定

個人会員

1. 会 費：

当会の会費は前納制になっています。したがって、3月末までに次年度分の会費をお支払い下さい。

年会費	1st Volume (4月号～9月号)	4,800円
	2nd Volume (10月号～3月号)	4,800円
		計 9,600円

お支払いは、郵便振替でお願いします。当会専用の振替用紙がありますので、下記までご請求下さい。郵便局の用紙でも結構です。通信欄に送金内容を必ず明記して下さい。

郵便振替口座 京都 01010-6-5312

2. 送本中止の場合：

送本の中止は Volume の切れ目しかできません。次の Volume より送本中止を希望される場合、できるだけ早めに「退会届」を送付して下さい。中止の連絡のない限り、送本は継続されますのでご注意下さい。

3. 送本先変更の場合：

住所、勤務先の変更などにより、送本先が変わる場合は、必ず送本先変更届を送付して下さい。

4. 会費滞納の場合：

正当な理由なく 2 Volumes 以上の会費を滞納された場合は、送本を停止することがありますので、ご留意下さい。

機関会員

1. 会 費：

学校、研究所等の入会、及び個人でも公費払いのときは機関会員とみなし、**年会費 19,200円** (1 Volume 9,600円) です。学校、研究所の会費の支払いは、後払いでも結構です。申し込み時に、支払いに書類(請求、見積、納品書)が各何通必要かをお知らせ下さい。当会の請求書類で支払いができない場合は、貴校、貴研究所の請求書類をご送付下さい。

2. 送本中止の場合：

送本の中止は Volume の切れ目しかできません。次の Volume より送本中止を希望される場合、できるだけ早めにご連絡下さい。中止の連絡のない限り、送本は継続されますのでご注意下さい。

雑誌未着の場合：発行日より6ヶ月以内に当会までご連絡下さい。

物性研究刊行会

〒606-01 京都市左京区北白川追分町 京都大学湯川記念館内
電話 (075)722-3540, 753-7051
FAX (075)722-6339

物 性 研 究 68-2 (5月号) 目 次

○「密度行列繰り込み群」の変分原理西野 友年、奥西 巧一、引原 俊哉.....	133
○研究会報告 「原子核とマイクロクラスターの類似性と異質性」.....	156
○編集後記.....	250

物 性 研 究 68-2 (5月号) 目 次

○「密度行列繰り込み群」の変分原理西野 友年、奥西 巧一、引原 俊哉.....	133
○研究会報告 「原子核とマイクロクラスターの類似性と異質性」.....	156
○編集後記.....	250